

広角 多角

秋色深まる都内の代々木公園をジョギングしていたら、知り合いのランナーに出くわした。「モヤモヤしちゃうね。こんな状況なら出来たよね」。本来なら、延期された東京マラソンがスタートしていた、日曜の朝だった。知人は、出場権が当たっていたのだ。

「こんな状況」とは、新型コロナウイルスの感染状況の改善だ。東京マラソンは開催ひと月前の9月17日、来年3月への延期が決まった。大会要項の「開催1か月前以降に緊急事態宣言が発せられている場合、中止」という基準に該当したからだ。ところが、感染者数はみるみる減り、19都道府県の緊急事態宣言は9月末に解除。開催予定日だ

走る？ 走らない？

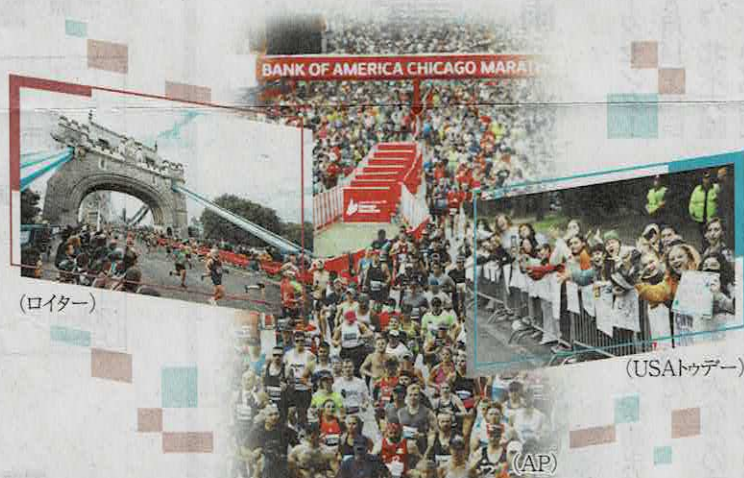
コロナ巡る覚悟の差

つた10月17日の都内の新規感染者は、わずか40人だった。「今やらないで、いつやるの」。夏から練習を重ねた知人は、ため息をついた。

もう一つ、彼の不満を膨らませたのが海外の状況だ。コロナ禍で休止していた世界の主要マラソンは、この秋、一斉に再開した。9月には2万4000人以上が参加したベルリンや、ウィーン、ローマなどで大規模マラソンがスタート。10月には3万5000人を超えたロンドンのほか、シカゴ、ボストン、アムステルダムなどのマラソンが、次々と開催された。

「何で東京だけ出来ないの」。各国の感染状況を見れば、はるかに日本の方が

編集委員 近藤雄二



接種が進んだから大丈夫。あとはウイルスと共存するしかない」と。沿道応援も屋外なので、控えてなんて言わず、多くの人がノーマスクで応援していました」

ットを更新する必要がある。恐怖にマヒしてはいけない」とウィズコロナへの覚悟を求めた。マインドセットとは、物の見方、考え方のことだ。

確かに海外マラソン沿道のマスク姿は少数だった。米大リーグや欧州サッカーでも大勢の観衆がマスクなしで声援を送る。一方、日本は10月4日に国民の6割が2回のワクチン接種を終え、接種率も米国を抜いた。それでも、大多数の人々が強制なしに、屋外でもマスク姿で黙々と歩いている。

そう、私たちはマインドセットが更新されていないのだ。スポーツ界や飲食店などでは社会経済活動再開への実証調査が進むが、結局は国のリーダーが強い意志で方向性を示さなければ、国民の心持ちは変わらないのではないのか。

今年のノーベル物理学賞の受賞が決まった真鍋淑郎さんが、米国に根を下ろした理由を「日本は他人に迷惑をかけることを嫌がり、調和のとれた関係を築いている。(私には)調和のとれた生活を送る能力がない」と話したのを思い出した。私たちは、きまじめ過ぎるのだろうか。

英国では今月下旬、新規感染者が5万人を超えたが、新たな規制の動きはない。英国は東京五輪前の7月19日、ワクチン接種の進展を理由に、ほぼ全ての規制を解除した。その際、ジョンソン首相は「今でなく、いつやるのか。これが正しい時だ」と力強く訴え、国民にも支持されてきた。

柳原元さん(55)に聞いてみた。柳原さんは今年、選手の大大会派遣などで欧州と米国に5度渡った。「ワクチンが鍵でした。あの大会主催者も『ワクチン

日本はきょう、衆院選の投票日を迎えた。新たな政権を担うリーダーは、いつ、どんな言葉で、私たちのマインドセットを、更新してくれるだろうか。

良好だ。「うーん」。返答に窮していると、苦笑いしつつ知人が言った。「仕方ないね。国民性かなあ」

なぜ海外では出来るのか。世界陸連公認代理人の